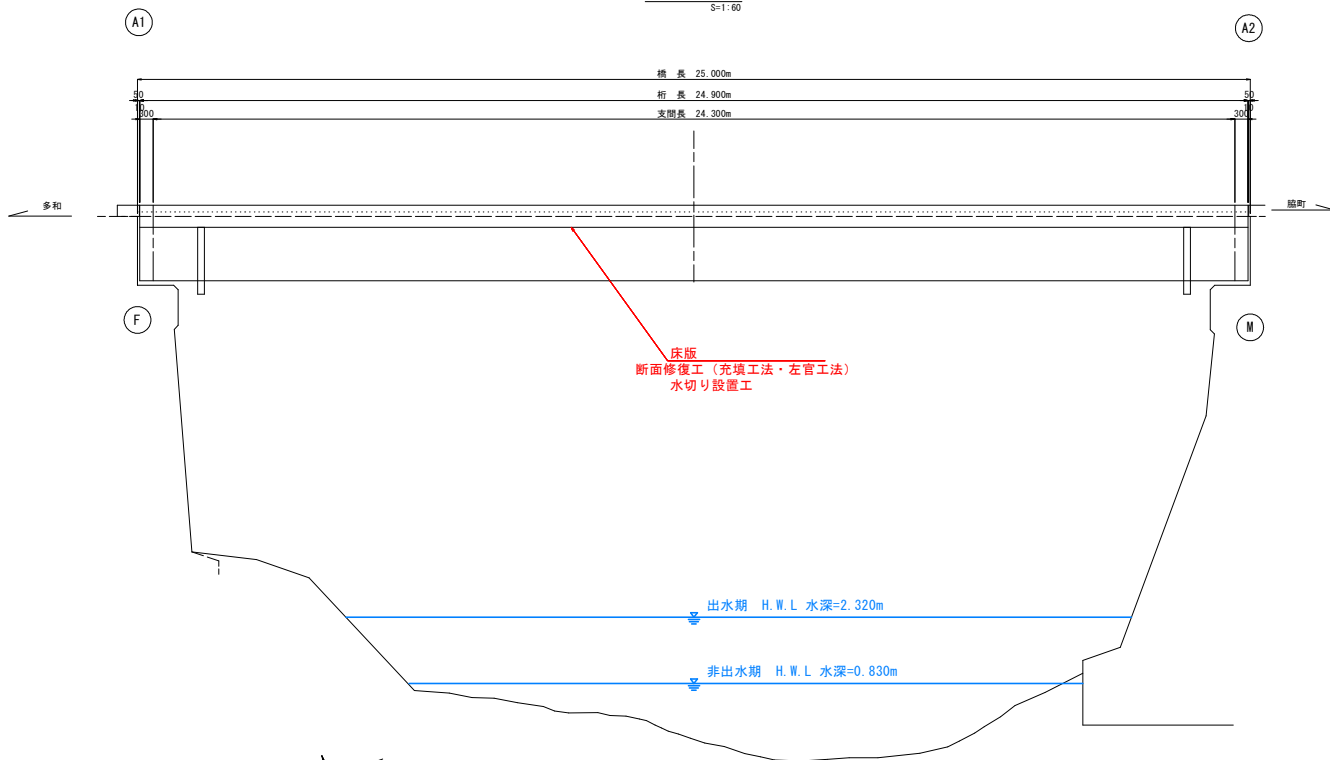
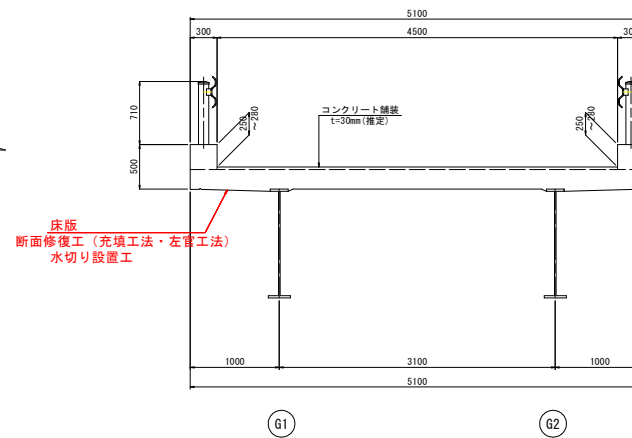


# 百々橋 橋梁補修一般図

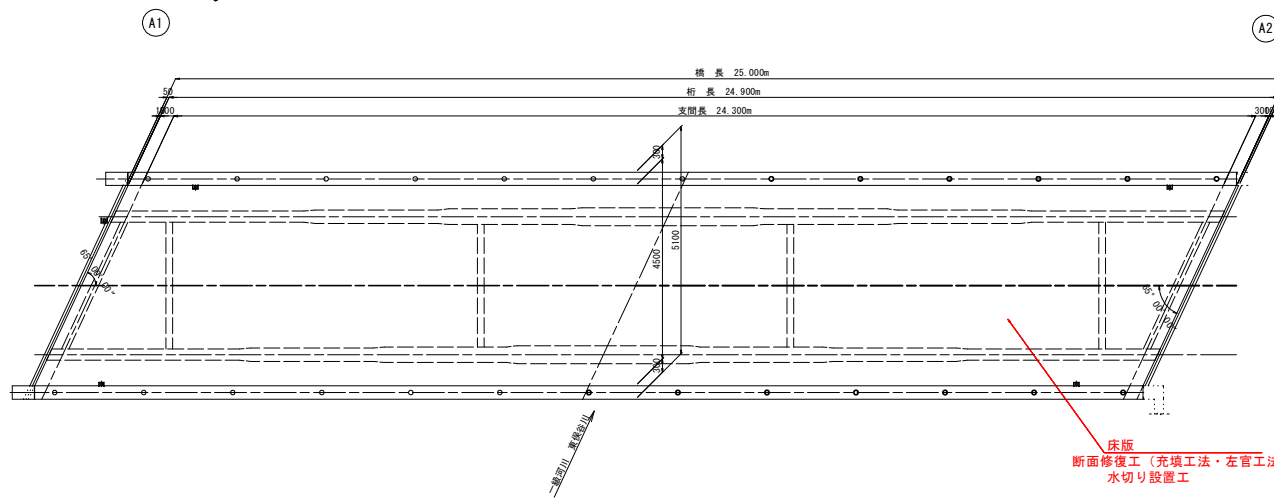
側面図 S=1:60



断面図 S=1:30



平面図 S=1:60



橋梁諸元	
路線名	一般県道 多和脇線
橋梁名	百々橋
竣工年月	上部工 昭和41年 下部工 昭和41年
橋長	25.000m
幅員	5.100m(0.300m+4.500m+0.300m)
橋格	TL-14・2等橋
上部工形式	1径間鎖単組合成版桁
下部工形式	半重力式橋台
適用示方書	-
河川条件	
河川名	一級河川 東俣谷川
計画高水流量	-

## 補修工法一覧

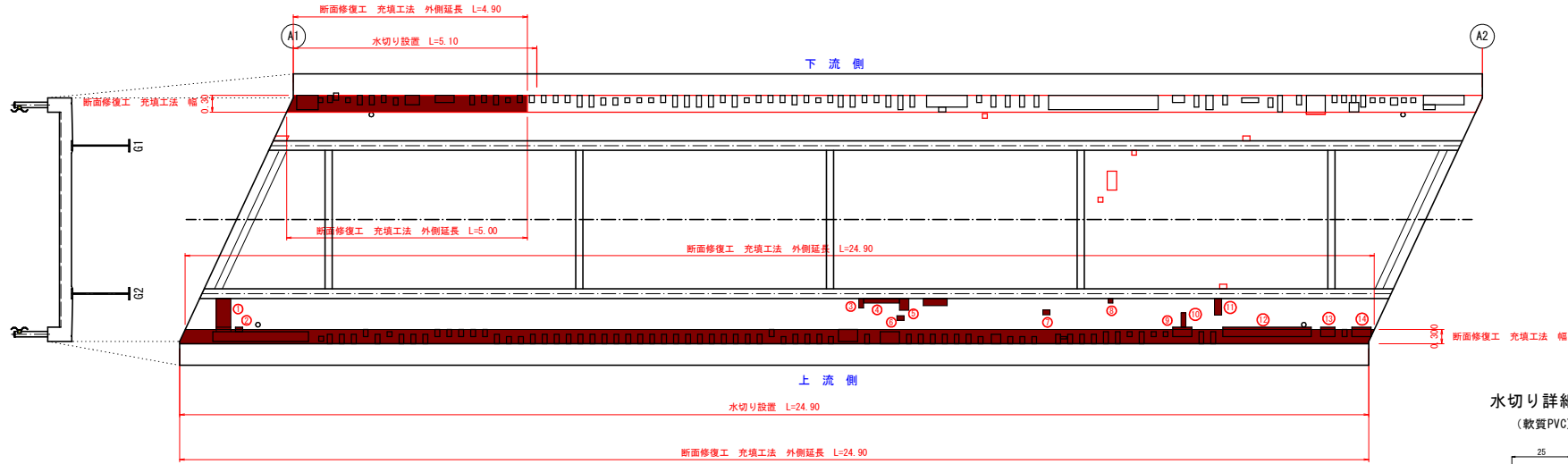
補修工法一覧			
部位・部材	劣化状況	補修工法	備考
床版	鉄筋露出・剥離	断面修復工	充填・左官工法
		水切り設置工	

工事名	R1馬士 多和脇線(百々橋) 类・脇東俣名 橋梁補修工事		
路線名等	(-)多和脇線		
工事箇所	美馬市脇町東俣名(百々橋)		
図面名	橋梁補修一般図		
縮尺	図示	図面番号	1 / 2
会社名			
事業者名	徳島県西部総合農林局(美馬)		

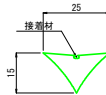
# 百々橋 上部工補修図

断面修復 左官工法  
断面修復 増厚 充填工法

凡例
断面修復工 左官工法
断面修復工 増厚充填工法

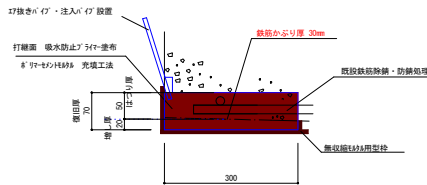


水切り詳細図 (軟質PVC) S=1:1



特記事項  
・接着面は清掃し、油分、ごみ等を取り除いた面とすること。  
・水切り本体の凹（切込み部）側に接着材を塗布（2mm程度）塗り、本体を押し付けるように施工する。  
・水切り本体の水平先端部がコンクリート面と接するようにして施工すること。

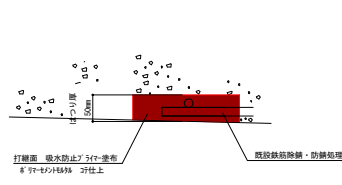
断面修復 増厚充填工法



数量表 (増厚充填工法)

張出床版端部				
加へ延長	はつり面積	はつり体積 (t=50)	復旧体積 (t=70)	
49.9m	7.5m <sup>2</sup>	0.46m <sup>3</sup>	0.53m <sup>3</sup>	
9.9m	1.5m <sup>2</sup>	0.1m <sup>3</sup>	0.11m <sup>3</sup>	
合計	59.7m	9.0m <sup>2</sup>	0.5m <sup>3</sup>	0.64m <sup>3</sup>

断面修復 左官工法



数量表 (断面修復左官工)

番号	L	W	面積
1	600	300	0.18000
2	150	50	0.00750
3	200	100	0.02000
4	750	100	0.07500
5	500	150	0.07500
6	150	100	0.01500
7	150	100	0.01500
8	100	100	0.01000
9	400	50	0.02000
10	300	100	0.03000
11	350	150	0.05250
12	1850	50	0.09250
13	350	50	0.01750
14	400	50	0.02000
合計			0.63000

※ 注

1. 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷をあたえないよう周囲に深さ1cm程度コンクリートカッターにより切目地を入れ、入念に施工する。（はつり深さは5cmを想定している。）
2. 使用材料  
断面修復材  
無収縮ポリマーセメントモルタルとし、「表面保護工法 設計施工指針(案) [工法別マニュアル編] 平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足するものとする。

力学的性能		設計及び施工条件	
要求性能		躯体コンクリートと同等強度特性を有すること	
圧縮強度		躯体コンクリートと一体となること (1.0N/mm <sup>2</sup> 以上)	

断面修復工

補修材の要求性能

(この要求性能を参考として、同等品と認められる材料を選定するものとする)

ポリマーセメントモルタルの性能例

施工方法	左官		吹付け		充填
	普通	速硬	普通	普通	
硬化性	普通	普通	普通	普通	普通
比重	1.8~2.2	1.3~1.6	1.8~2.1	1.5~2.2	2.1~2.2
単位容積質量 (kg/l)	120~160	110~150	120~160	140~250	~300
フロー	3~8	3~10	0.5~2	3~8	4~15
硬化時間 (h)	—	—	3~15	—	—
材料 3h	—	—	3~15	—	—
圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )	材料 1d 5~25	3~25	10~30	5~15	5~10
	材料 7d 20~40	5~30	20~40	15~40	15~40
	材料 28d 25~60	10~35	25~40	30~60	25~60
付着強度 (N/mm <sup>2</sup> )	標準 1.8~3.4	1.8~2.6	2.0~2.8	2.0~3.5	2.0~2.3
	温冷繰返し				
弾性係数 (kN/mm <sup>2</sup> )	16~21	12~15	13~21	14~21	17~21
引張強度 (N/mm <sup>2</sup> )			3~6		
取縮率 (×10 <sup>-6</sup> )			200~1000		
熱膨張率 (×10 <sup>-6</sup> /°C)	8~17	9~13	10~15	9~17	—

出典：「表面保護工法 設計施工指針(案) [工種別マニュアル編] 土木学会」P.202

鉄筋コンクリート補修用防錆材の品質基準

項目	基準値
耐アルカリ性	塗膜に異常が認められないこと
鉄筋に対する付着強さ (N/mm <sup>2</sup> )	7.8以上
防せい性	処理部 防せい率 50%以上 未処理部 防せい率 10%以上※

※：未処理部の防せい率は、防せい材で処理することによって、マクロセルを形成し、基材部の鉄筋腐食を促進するようなものであってはならず、比較用モルタルの養生率とほぼ同等以下とし、養生率で+10%以下 (=防せい率で-10%以上) とした。

出典：「ひびわれ調査・補修・補強指針：日本コンクリート工学会」P.132

排水装置材料表

名称	符号	規格	単位	数量	備考
水切り		軟質PVC	m	30.000	N = 2 本

注1：施工前に現状状況及び寸法等を測定し、図面照合の確認を行うこと。

工事名	R1馬士 多和橋線 (百々橋) 橋梁補修工事
路線名等	(一) 多和橋線
工事箇所	奥馬市臨時東側橋 (百々橋)
図面名	橋梁補修一般図
縮尺	図示 図面番号 2 / 2
会社名	
事業者名	徳島県西部総合農林局 (奥馬)